

はじめに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では従来の想定をはるかに超える巨大な津波により多数の尊い命が失われました。

この未曾有の災害をうけ、国・愛知県と南海トラフを震源として発生する大地震の被害予測調査が実施され、本市においても豊橋市南海トラフ地震被害予測調査を平成26年8月28日に公表しました。

この地震被害予測調査では南海トラフで繰り返し発生している地震のうち、過去に実際に発生したものを参考にした「過去地震最大モデル」、内閣府があらゆる可能性を考慮して想定した最大クラスの地震・津波に基づいた「理論上最大想定モデル」の2つのモデルによるハザードの予測が実施されており、太平洋沿岸及び三河湾沿岸に津波の浸水が予測されています。太平洋沿岸については海岸背後に高さ40mから70mの海食崖が形成されており、太平洋側からの市街地への津波の流入は想定されていませんが、海岸利用は海岸からの素早い避難が必要となります。一方で多くの市民が生活する三河湾側については、低地部が広がっており、広い範囲での浸水が想定されています。

このため、特に三河湾側の地域については各地区の特性に応じた体系的な津波からの避難計画を策定し、万全な避難体制を構築しておかななくてはなりません。

また、津波防災地域づくりに関する法律に基づく、愛知県による津波浸水想定の設定（平成26年11月）及び津波災害警戒区域の指定（令和元年7月）に伴う対応を適切に行う必要があります。

この豊橋市津波避難行動指針では、千年に一度あるいはそれよりももっと頻度が低いとされる理論上最大想定モデルの地震による津波が発生した場合においても、津波対策の最大の目標である「命を守る」という観点から、住民のとるべき津波避難行動の指針を示しています。

この指針を参考として地区別の具体的な津波避難計画（津波避難マップ）を作成することにより、全ての住民の皆様が、命を守るための素早い避難につなげていただくことが重要です。

令和3年2月

豊橋市防災危機管理課